

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.johas.go.jp/>



「災」の後に

院長 加藤 文彦

遅ればせながら、皆様が穏やかな平成最後の年を迎えられたことを祈念いたします。

皆さん御存知の通り、2018年は豪雨、台風、地震と自然災害が多発しました。2018年12月12日に例年通り、日本漢字能力検定協会が京都・清水寺で「今年の漢字」を発表しました。自然災害の多発を受けてか、森清範貴主が揮毫した漢字一字は「災」でした。悲しいことながら、納得のいく「2018年の漢字」であったかと考えます。

ただし、悲しんでばかりもいられませんので、今年は「災」の後に何とかしなければならないと考えます。「災」の後にふさわしい漢字は何でしょうか。「災」からの復興・復旧の「復」？次なる「災」に対する防備・備蓄の「備」？次なる「災」の予測・予知の「予」でしょうか？皆さん色々な漢字を思いつくとは思いますが、私としては『活』を掲げたいと思います。『活』、英語で言うと「vivid」、日常の日本語では「生き生きとしていること」です。『活』がなければ、「復」も「備」も全

てのことが始まらないと考えます。

私事ですが、2019年2月に私も満65才となり、高齢者の仲間入りをしました。最近、「老人」という言葉は差別用語だという意見があります。「老人」という言葉には「衰えた人」とか「萎えた人」、「弱った人」とかいうニュアンスがあるからでしょうか。「老人」に代わる言葉として、「シニア」という呼称が支持を得つつあるという意見も聞いたことがあります。しかしながら、高齢になって「衰えてしまった人」や、「弱ってしまった人」は現実にはいますので、そういう意味での「老人」に相当する言葉はなくすわけにはいかないと考えます。歳を重ねて、より高齢になっていくことは誰も避けては通れませんので、「高齢者にはなっても、老人とは呼ばれないようにする」、幾つになっても『活』な高齢者であるようにする」ということが重要かと考えます。

当院が今年の皆様の『活』にお役に立てるように、当院の職員が皆様との関係をより『活』に保てるように心掛けますので、宜しくお願い申し上げます。

今月号のお知らせ

- | | |
|--|--|
| ①「災」の後に……………院長 加藤 文彦 | ④第16回女性医療フォーラムを終えて
……………女性診療科・神経内科部長 上條 美樹子 |
| ②中部ろうさい健康フェスタを開催しました
……………患者サービス委員会 | ⑤第16回市民健康セミナー開催報告
……………循環器内科 副部長 長尾 知行 |
| ③がん治療と就労の両立支援について
……………医療ソーシャルワーカー 久野 愛 | ⑥院内行事開催記録
病院の理念・当院の基本方針、編集後記 |



医療職

がん治療と就労の両立支援について

医療ソーシャルワーカー 久野 愛

現代の日本では、がんは必ずしも命にかかわる病気ではありません。最近のデータによると、完治の目安とされる5年生存率は6割に達し、いまやがんは長く付き合う病気へと変わってきています。

しかしながら、がんになると様々な不安や心配ごとができます。その中でも仕事は生活を支える大切なことで、治療をしながら働き続けるかどうかは大きな問題です。「仕事を続けたいけど治療をしながら続けられるだろうか」、「診察や治療のたびに休ませてもらえるだろうか」、「職場に病気のことをどこまで話そう」、「仕事を休むと生活費や医療費は支払えるだろうか」等々、様々な不安ごとが頭に浮かびます。

当院では、疾患に限らず、治療とお仕事の両立ができるように、専門スタッフとして両立支援コーディネーター（医療ソーシャルワーカー）がお手伝いをしています。

《ご相談内容》

◆今後の医療費や生活費の相談をお受けします。

今後の治療方法については主治医とよくご相談いただき、それに伴う医療費についてご相談ください。活用可能な社会保障制度のご案内をさせていただきます。

◆治療スケジュールに沿ってお仕事の休みの取り方を一緒に検討します。

有給休暇、病気休暇（有給・無給）、半日休

暇、時間休暇等、勤務先で設定されている休暇制度を整理して、治療スケジュールにそった、休暇取得の方法を検討します。

◆職場へ提出する診断書の準備をお手伝いします。

少しでも安心して治療に専念し、休職や復職ができるように職場にもわかりやすい診断書作成のお手伝いをさせていただきます。

◆職場復帰のご相談をお受けします。

ご希望に応じて、ご本人さまと勤務先、両立支援コーディネーターとで働き方の相談も可能です。勤務先が確認したいことを伺い、主治医に確認の上、返答・説明いたします。勤務先の現状や就業規則等を踏まえて、無理のない働き方を一緒に検討します。

人によって働くことの意味は様々です。あなたにとって働くとは？

働く意味について改めて考える、今の気持ちを整理したい、退職など大きな決断をされる前に、ぜひご相談ください。

《相談窓口》

よろず相談室 両立支援コーディネーター
相談時間：月～金（祝日除く）

8時15分～17時まで

*相談は無料です。面談をご希望の際は、事前にご予約いただけますと、お待たせせずにご相談をお受けできます。

イベント

中部ろうさい健康フェスタを開催しました

患者サービス委員会

皆さん、11月17日に行われた当院初の試み「中部ろうさい健康フェスタ」にはお越しいただきましたか?少し冷える秋模様の中、病院スタッフが奮闘し、地域の皆さんや患者さんに中部ろうさい病院を見て、知って、少しでも身近に感じてもらうよう、また、健康に近づく日々の役に立つようにと様々なブースを設けました。

今回の開催を知らなかった…という方も含め、次回にもご期待いただけるよう、今回の模様をご紹介します。

●各種相談ブース

当院の看護師、薬剤師、管理栄養士と直接相談できるブースです。日頃のちょっとした疑問など、こういったイベントの時だからこそ和やかに話せるブースとなっていました。

●測定・アドバイスブース

理学療法士による体力測定とアドバイス、看護師による骨密度測定ができるブースです。



診療における本格的な検査とまではいかななくても、気軽に測定できて、日頃の生活を少し気に掛けるきっかけになるブースです。

●体験ブース

放射線技師によるマンモグラフィ装置の見学会や、検査技師による超音波検査の体験もありました。



●カイオーとギンペーが登場

名古屋港水族館からシャチのカイオー、ペンギンのギンペーが遊びにきてくれました。子どもたちとハグしたり、一緒に写真を撮ったり、たくさん動き回って盛り上げていて、また来年も会えたらいいなと思う可愛さでした。



●お楽しみブース

皆が楽しめるフェスタとして、子どもたちが楽しめるブースも用意しました。子ども向けのがん教育スペースはクイズラリーや映像がわかりやすく、小さい頃からの啓発活動の大切さを感じました。縁日のような魚釣りやヨーヨーすくいブースでは、たくさん笑い声が聞こえました。

●スポーツクラブのインストラクターによるストレッチブースとリンパドレナージュ体験

皆さん筋膜リリースってご存知ですか?日常生活で固まった筋膜の機能回復を図るため、物理的に刺激を加えて体のコリや疲労回復につなげようというものです。このブースではプロにストレッチポールを使ったストレッチや、動きのコツをじっくり教えてもらえました。



●嚥下食試食会

嚥下食、聞いたことはあっても食べたことはない方が多いと思います。この日は、通常の固形食と嚥下食が全く同じメニューで用意され、食べ比べをすることができました。どんな時でも食を楽しめる配慮はすごいものだなと感じました。



●メインステージ

メイン会場となる特設ステージでは、脳卒中の啓発活動として神経内科梅村医師と院外の認定看護師さんが登場したミニ劇場や、リハビリテーション部によるココモ体操、外科橋本医師や形成外科加藤医師をはじめとする職員によるコンサートなどが開催されました。



ココモ体操は会場にいるみんなで参加でき、一体感がありました。自分に合わせて強度を調整することもできるので、家でもやってみようとの声が多く聞こえました。

コンサートでは子どもたちもステージに登場し、歌って笑っての楽しいステージでした。

全てを紹介しきれないくらい様々なブースがあり、半日の開催でしたが、多くの方に来ていただきました。

今後もさらに当院が地域の皆さんに身近に感じてもらえるよう、健康フェスタを開催していきたいと考えております。来年度も皆さんのお越しをお待ちしております。



医師



第16回市民健康セミナー開催報告

循環器内科 副部長 長尾 知行

平成30年11月10日、当院講堂にて第16回市民健康セミナー「がん医療の最前線」が開催されました。今回は、肺がんと前立腺がんをテーマに行いました。

まず始めに、肺がんに関して、内科的側面から当院呼吸器内科の松尾正樹部長より、肺がんの疫学や検査、診断、病期や内科的治療に関してのお話がありました。肺がんの患者様は年々増加し、現在、日本人において最も死亡数が多いがんであることや、肺がんの診断は、胸部レントゲン写真、CT撮影から始まり、気管支鏡検査（現在は、気管支内腔内超音波を利用している）、胸腔鏡やCT下で組織を採取する検査を行うこと、さらには、見落とすことなく適切に診断することの重要性を教えてくださいました。また、治療では、従来の抗がん剤治療に加え、現在では分子標的治療薬や、最近話題になっておりますオプジーボをはじめとする免疫療法に関しても触れられ、これらに放射線治療を組み合わせ、集学的に治療を行っていることを実際のCT画像を提示しながらわかりやすく説明していただきました。

続いて、外科的側面からは、当院呼吸器外科の菅谷将一部長から、実際の肺がんの手術の様子を、ビデオを通じてわかりやすく講演していただきました。症例によっては胸腔鏡を利用することで、外科治療と言えど、患者さんにやさしい低侵襲の治療をされていること、また、開設後12年間に於いて術後30日以内の死亡率が0%(本邦では2015年度は0.44%)であるというデータを示されておりましたことは、日々症例を前に、先生方が術式等を1例1例しっかり検討され、丁寧に手

術を行っておられることを反映していると思われ、感銘を受けました。

最後に、当院泌尿器科の高木康治部長より、前立腺がんに関しての講演をしていただきました。前立腺がんは、がんの男性罹患数では胃がんに次いで第2位であることから、早期発見につながるスクリーニング検査としてのPSA(前立腺がん腫瘍マーカー)測定の重要性、前立腺がんの診断に至る検査、また、手術療法や放射線療法をはじめ、前立腺がん特有の治療であるホルモン療法に関してもわかりやすく教えていただきました。

例年同様、多数の方に出席いただき、誠にありがとうございました。私としましては、属している科の特性上、自分でがんの患者様を担当する機会はありませんが、本講演を通じて、タイトル通り、現在の「がん治療の最前線」を知ることができ、大変有意義な内容でした。参加された皆様もぜひお近くの方々と、今回の講演内容を共有していただき、少しでも気になる症状がございましたら、当院へ来院の上、相談をしていただけますと幸いです。当セミナーは、今後も引き続き、年2回のうち1回は、がんをテーマに開催させていただく予定です。次回もぜひ参加していただき、日々の疑問を気軽に質問し、解決する場として利用していただけますと幸いです。今後とも本セミナーをよろしくお願い申し上げます。





医師



第16回女性医療フォーラムを終えて

神経内科・女性診療科部長 上條 美樹子

先日の第16回女性医療フォーラムには年末にもかかわらず400人の皆さんにウインクあいちにお集まりいただき好評のうちに終了いたしました。

このフォーラムは全国の労災病院が定期的で開催している健康フォーラムです。今回の当院主催のフォーラムでは女性の心身の健康、すなわちトータルビューティーを考えることがテーマになりました。

インボディや骨密度測定、乳がん自己検診指導ブースには開場を待つ列ができたほど。大ホールの講演では婦人科スポーツドクターとして活躍中の高尾美穂先生に女性ホルモンとの付き合い方や女性として健やかに年齢を重ねることの大切さをお話いただきました。当院心療内科部長の芦原は、ココロの不調の克服という、非常に難しいテーマを軽妙に語り、予定の講演時間を超えて進行をヒヤヒヤさせました(笑)。第二部はタレントの矢野きよ実さん、名古屋リビング新聞社の中島幸子さんを迎え、女性外来担当医である私と鼎談。矢野さんご自身のがん治療経験や、震災被災・虐待など辛い状況にある子どもたちとのふれあいを語る矢野トークは彼女のスローガン「無敵」そのもので、会場共々ひきこまれました。中島さんの何事にも挑戦する姿勢も熱く司会

はお二人に圧倒されっぱなし。最後は高尾、芦原両先生にも再登場いただいて、会場からの質問にお答えしながら笑い声

溢れる楽しいフォーラムになったと思います。

女性医療フォーラムにもかかわらず、会場には男性参加者も目立ちました。50代の男性参加者からは「妻に誘われて渋々参加したが女性の大変さがよくわかった。男性の自分にもとても参考になった。女性のパワーに感激した。」と後日お手紙をいただきました。

患者さんを病院でお待ちするのみではなく病院の外でいっしょに健康を考える機会は非常に有意義だったと思います。また新しい企画を考えていきますので期待してください。

第16回 女性医療フォーラム

第2部 パワフルトーク
カッコイイ女がいるために
病院との賢いつきあい方



院内行事開催記録

★糖尿病週間2018in中部ろうさい病院を開催しました★

11月14日を含む1週間は、全国糖尿病週間とされ様々な活動が実施されています。

当院でも、11月9日(金)に糖尿病に関するイベントを開催しました。講演だけでなく、いきいきバイキングやウォーキング、健康相談会など様々なイベントが開催され、糖尿病について食事や運動を通して楽しく学ぶことができたのではないのでしょうか？

いきいきバイキングでは、栄養士と調理師がバランスを考えて作った彩り鮮やかなメニューを前に、皆さんとの組み合わせにするか目を輝かせながら真剣に悩まれていました。

今後も、みなさんに楽しく学んでいただけるようなイベントを開催してまいりますのでよろしくお願いたします。



★医療安全推進週間～手洗い体験～★

11月25日を含む一週間は、医療の安全対策を促進するために『医療安全推進週間』と定められています。

当院でも、11月30日(金)に正面玄関にて手洗い体験を行いました。参加者には手に蛍光塗料を塗っていただき、ブラックライトを使って洗う前と後の変化を見てもらいました。自分ではちゃんと洗えていると思っていても、洗い残しがちらちらと…。

普段菌は目に見えないためなかなか気づきませんが、ほんの少し意識するだけで手洗いの効果はぐっと上がります！

今日から皆さんも手を洗う際は、爪の隙間や指と指の間、手の平などを少し意識して洗ってみてください。



当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

～ 編集後記 ～

インフルエンザのピークも落ち着き、春日和となる日も増えてきました。しかし、まだ冷え込む日もありますので、体調管理にはお気をつけてください。

さて、今号のフィリアレターでは各種イベントの報告と、両立支援の紹介を行いました。

学ぶだけでなく、皆さんの悩みを解決する場所として各種イベントを定期的に行って参りますので、お気軽にご参加下さい。

さらに、1Fよろず相談室では、就労から医療費まで様々な相談を受け付けております。いつでもお気軽にお立ち寄りください。

(M・W)